

商品名 フェンタニル注射液0.5mg「テルモ」 医薬品基本情報

薬効	8219 その他の合成麻薬	一般名	フェンタニルクエン酸塩注射液
英名	Fentanyl	剤型	注射液
薬価	887.00	規格	0.005% 10mL 1管
メーカー	テルモ	毒劇区分	(劇)(麻)

フェンタニル注射液0.5mg「テルモ」の効能・効果

全身麻酔、全身麻酔における鎮痛、局所麻酔の鎮痛の補助、(術後疼痛、癌性疼痛、激しい疼痛)の鎮痛

フェンタニル注射液0.5mg「テルモ」の使用制限等

- 筋弛緩剤の使用が禁忌、本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、呼吸抑制を起こし易い体質、頭部外傷による昏睡状態、脳腫瘍による昏睡状態、痙攣発作の既往、喘息、ナルメフェン塩酸塩水和物投与中、ナルメフェン塩酸塩水和物投与中止後1週間以内、注射部位又はその周辺に炎症、敗血症、髄膜炎、中枢神経系疾患、灰白脊髄炎、脊髄瘍、脊髄に結核、脊椎に結核、脊椎炎、脊髄に転移性腫瘍、脊椎に転移性腫瘍、脊髄に活動性疾患、脊椎に活動性疾患
- 重症高血圧症、心血管系に著しい障害、心弁膜症、呼吸機能障害、慢性肺疾患、不整脈、poor risk状態、薬物依存の既往、髄膜炎、中枢神経系疾患、灰白脊髄炎、脊髄瘍、脊髄に結核、脊椎に結核、脊椎炎、脊髄に転移性腫瘍、脊椎に転移性腫瘍、脊髄に活動性疾患、脊椎に活動性疾患、血液凝固障害、抗凝血剤投与中、脊柱に著明な変形、肥満、腎機能障害、肝機能障害

記載場所 使用上の注意

注意レベル 禁止

記載場所 使用上の注意

注意レベル 注意

フェンタニル注射液0.5mg「テルモ」の副作用等

- 薬物依存、呼吸抑制、無呼吸、換気困難、血圧降下、ショック、アナフィラキシー、血圧低下、蕁麻疹、不整脈、期外収縮、心停止、興奮、筋強直、チアノーゼ
- 悪心、嘔吐
- 血圧上昇、起立性低血圧、頻脈、ふるえ、錐体外路症状、四肢振戦、視力障害、多幸症、せん妄、うわ言、傾眠、しびれ、痛覚過敏、痛みが増悪、アロディニア、口渇、食道運動障害、咳嗽、発熱、尿閉
- 過敏症、発疹、紅斑、そう痒症、蕁麻疹、徐脈、不眠、後睡眠、めまい、頭痛、精神症状、気分動揺、発汗、咽頭痛、喀痰排出増加、喀痰排出困難、体温低下、悪寒、四肢冷感、喘鳴、吃逆、嘔声

記載場所 重大な副作用

頻度 頻度不明

記載場所 その他の副作用

記載場所 その他の副作用

頻度 頻度不明

記載場所 その他の副作用

頻度 5%未満

5. 化膿性髄膜炎症状、敗血症性髄膜炎、ショック、中毒症状、重篤な呼吸抑制、血圧低下、血腫、脊髄障害、脊髄損傷、神経根損傷、呼吸抑制、生存平均体重低下、徐脈、重篤な換気低下、白質脳症、換気低下、無呼吸、重度かつ持続的低血圧、頭痛、一過性外転神経麻痺、脊髄神経障害

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

フェンタニル注射液0.5mg「テルモ」の相互作用

1. 薬剤名等：ナルメフェン塩酸塩水和物投与中止後1週間以内

発現事象 -

投与条件 -

理由・原因 -

指示 禁止

2. 薬剤名等：ナルメフェン塩酸塩水和物

発現事象 本剤の効果が減弱、本剤の離脱症状

投与条件 -

理由・原因 μ オピオイド受容体拮抗作用により、本剤の作用が競合的に阻害

指示 禁止

3. 薬剤名等：CYP3A4阻害作用を有する薬剤

発現事象 本剤のAUCが上昇し呼吸抑制等の副作用

投与条件 -

理由・原因 肝代謝酵素CYP3A4に対する阻害作用により、本剤の代謝が阻害

指示 慎重投与

4. 薬剤名等：抗凝血剤投与中

発現事象 血腫、脊髄障害

投与条件 硬膜外、くも膜下

理由・原因 出血

指示 注意

5. 薬剤名等：中枢神経系抑制剤

発現事象 中枢神経抑制作用が増強

投与条件 -

理由・原因 相加的に中枢神経抑制作用が増強

指示 注意

6. 薬剤名等：全身麻酔剤

発現事象 中枢神経抑制作用が増強

投与条件 -

理由・原因 相加的に中枢神経抑制作用が増強

指示 注意

7. 薬剤名等：モノアミン酸化酵素阻害剤

発現事象 中枢神経抑制作用が増強

投与条件 -

理由・原因 相加的に中枢神経抑制作用が増強

指示 注意

8. 薬剤名等：三環系抗うつ剤

発現事象	中枢神経抑制作用が増強	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用が増強	指示	注意

9. 薬剤名等：骨格筋弛緩剤

発現事象	中枢神経抑制作用が増強	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用が増強	指示	注意

10. 薬剤名等：鎮静抗ヒスタミン剤

発現事象	中枢神経抑制作用が増強	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用が増強	指示	注意

11. 薬剤名等：アルコール

発現事象	中枢神経抑制作用が増強	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用が増強	指示	注意

12. 薬剤名等：オピオイド剤

発現事象	中枢神経抑制作用が増強	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用が増強	指示	注意

13. 薬剤名等：セロトニン作用薬

発現事象	興奮、錯乱、振戦、発汗、頻脈、発熱、不安、セロトニン症候群、ミオクロヌス、焦燥	投与条件	-
理由・原因	相加的にセロトニン作用が増強	指示	注意

14. 薬剤名等：CYP3A4誘導作用を有する薬剤

発現事象	本剤の血中濃度が低下し治療効果が減弱	投与条件	-
理由・原因	肝代謝酵素CYP3A4に対する誘導作用により、本剤の代謝が促進	指示	注意



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『DIR』